第３回地域コミュニティ活性化委員会会議要録

日時：令和元年 10 月 25 日（金）18 時 50 分～21 時 00 分
会場：箕輪町役場　大会議室
参加者：地域コミュニティ活性化委員７人（欠席：春日委員、髙橋委員、林委員）
　　事務局３人（企画振興課）
傍聴人数：１人

１　開　会　（毛利企画振興課長）

２　委員長あいさつ

３　副町長あいさつ

４　協議事項
（１）　地域コミュニティ活性化に向けた提言ならびに今後の展開について
※事務局より資料に基づいて説明
※委員長提供資料について委員長より説明
委員長：本委員会の出発点は、より良い地域のために。委員会の使命は、それぞれの役割を明確にし、提起したい。町民意識を変えていく事も必要。例えば、ゴミ出しもルールを守れるなら、いつ出してもいいという風にすれば、コスト減少につながる。区・常会、地域コミュニティが充実していると、住民相互の融和、共助につながり、災害時等にも連携が出来る。

（２）　地域コミュニティ活性化の方策について
〇地域コミュニティ活性化について
平出：地域コミュニティ活性化の原点の話になるが、それぞれの地区、コミュニティ、それぞれに活発に活動している。他区は、あんな事、こんな事、やっていていいね。自分の区は、活性化していないのか。そうではない、活性化していないとは、言い切れない。どういう状況になれば、活性化していると言えるのか。参加率、地区の動きが良くなれば、活性化していると捉えれば良いと思う。色々な行事に出てくる人が減っているのが、心配な点。何かやる時に大勢の人が出てきてくれれば、活性化していると言えると思う。参加率が少なかったら、向上するようにするのが、1 番かなと思う。担い手がいないから活性化していないとは、言い切れないと思う。地域コミュニティ活性化という姿とは。
事務局（小笠原係長）：活性化していないわけでは、無い。役員への負担が大きい。町長への手紙でももらっている。現状の負担を減らして、皆がやりやすいように提言の中で向上出来るように考えている。

〇若者世帯の地域の関わりについて

浦野：平出委員が言った事は、大事な事。皆、それぞれの役で一生懸命やっている。若い人が出てくると元気。深沢のお祭り、育成会が親子が出てくれるように仕掛けした。お子さんが来て、とても賑やかで、現在も賑やか。横のつながりを大事にするのが必要だと思う。若い人が出てくると活気が出る。

委員長：若者に主体的にどう関ってもらうかが大事。いいアイディアあれば。

小林：各区の行事。昔から継承されているものが、たくさんあると思う。役員も同じようにやるのは楽。それを続けていくとマンネリ化、役員の家族が義理で来る状態になってしまう。時代のニーズに合った形に。木下区も 5 月 5 日の子供の日に大芝にウォーキングに行っているが、本当に子供が喜ぶのか、今の子供達が何を求めているのかを知る必要がある。伝統的な事は、大事だが、幅広く出てもらえるように考える必要がある。

〇行事の見直し、区の再編について

有賀：やるなら楽にやっていけば、継続していける。案の段階になるが、三日町、福与合同で敬老会をやるとかは、どうか。保育園、小学校の先生も個々にやっていると、両方の敬老会に行く必要がある。負担軽減策として、良いのでは。

委員長：前回、髙橋委員からもあったが、一緒にやるというのは、良い提言。

唐澤：消防団は、第 1 分団～第 6 分団まで。区の見直しが必要。西部でも 1 つにするかという話がある。区の再編を考えてみては。松島、木下、区会議員やりたくても出来ない。中原は、人が少ないので、役員困ってしまう。

〇若者・女性の区政への関わりについて

委員長：若者、女性が区政に絡むには、どうしたらいいか。

小林：本日、女性活躍の会議で、町議との懇談を行った。自由に意見を言う中でどこの区も人材不足。成り手がいない。女性の登用が絶対必要。そうしないと、区が回らない。区長会に働きかけてクオータ制、何人か女性を区議に入れてくれと働きかけるのもありかと。

浦野：女性の区会議員について、南小河内はどうか。委員長に聞きたい。

委員長：あまり、役割が明確でない。

浦野：女性の役割を明確にしないといけないのか。

委員長：男性と女性、やれる事が違う。華を添えているだけの状態になってもいけない。

浦野：女性だからという意識を変えてもらいたい。私達も変えないといけない。

小林：女性が男性と同じようにやらないといけないという訳ではなくて、地区社協やごみの関係のよう、女性でも出来る仕事ある。適材適所に配置すれば。私は女だからというアピールをすると、やっぱり女だからと思われてしまうので、そう思われないように責任持って行う必要がある。

委員長：本日の女性活躍の会議で、区会議員のクオータ制は、強い意見だったか。

小林：そうしないと回らない。区会議員をやってもらって町議につなげていきたいという考えもあった。女性、男性と分ける必要は、ないと思う。ここまで来ると、女性、男性とは言ってられない。人材がいたら、出てきてもらい、輝いてもらう必要があ

る。
平出：人材がいたらだが、人材がいない。
小林：人材は、いる。
平出：必要ない。

〇担い手について
浦野：役の担い手。数年前に違う委員会に出た時に、毎年、役を変わるのではなく、何年かやってみる。結局任期で変わってしまう。もう少しという話が出る所は、無いか。
平出：民生委員の話になるが、民生委員でもう1期やってもいいと思っていた方がいたが、区は、別の方の選考に入っており、区からも声がかからず、2期目が無かった方がいた。民生委員は、1期じゃ掌握できない。2期、3期やる必要ある。役によっては、続ける必要がある。区長、2年は、出来ない。
唐澤：区長2年出来ない。頭おかしくなる。2年出来るわけない。
小林：木下、松島は、区長2年。
唐澤：大きい区は、出来る。
浦野：若い子が役員で入ってきて、最初は、イヤと言っていたが、やってみたら良かったと言っていた。職場との往復だけでは、そういったのを知れないし、関わりがない。
委員長：町民に訴える時に役をやる事のメリットが大事だと思う。何かあった時に助けあえるとか、自分にプラスとして、返ってくる事の訴えが必要。
浦野：大きい単位だと難しい。組とかでコミュニケーションをとっていかないといけない。まずは、そこ。町は、何故やってくれないのかと思っていたが、やっていくとまずは、自分達からだと思うようになった。個人情報、何だと言われているが、色々な活動をしていれば、個人情報入ってくる。

〇組織の設立、運営、女性について
委員長：組とかに助成する仕組みが有効では。
平出：そういう補助は、既にある。ふれあいサロンへの補助とか。
委員長：そういった補助を隣近所に出す仕組み。
平出：5常会ある。常会毎のサロンの設立説明会あったが、参加する人いなかった。上から目線でやっていくのがいいのか。隣近所から湧き上がってくるのがいいのか。隣近所から湧き上がってくる雰囲気を。区には、既に色々な会がある。そういった集まり大事。何か起こった時にそういった小さなサークルのまとまりが大切になっていく。新しい会を作ったはいいが、維持する事が出来なくなっていく。北小河内みらい会、初代会長10年やった。その後、会長をやる人がおらず、民生委員が長となった。今、次の人をどうしようか悩んでいる。やってくれる人がいればいいが。会をやれば、人が出てくるが、維持が大変。
浦野：人によって、得意、不得意がある。サロン、自分は、負担無くやれたが。
平出：前任者みたいに出来ないという声がある。区長の大変さを見せないようにしている。
唐澤：区長の大変さ見せないといけない。楽と思われる。
委員長：大きい区と小さい区、置かれている状況が違う。町への要望等でも良いがいかがか。

小林：大きい区でも小さい区でも基本は、常会。常会毎のまとまり、その気持ちを思い出してもらう。災害時、困った時に来てくれるのは、近所の人だというのを自然と考えてもらえるように。

唐澤：責任ある会合に来ない。

小林：やらされ感ある。

唐澤：小さい所は、役がずーと終わらない。

平出：お互いが普段の生活を気遣えるようになっていけば。区会でもそう言ってはいるが、中々難しい。

浦野：組織を作ると役の問題がある。

委員長：具体的な行動を積み重ねていけば、意識に繋がっていく。南小河内、住民同士の助け合い活動、アンケートを取ってみると、高齢者に切実な問題が上がってきた。そこで近所同士の助け合いしようとなった。良い事をやってくれたという声があった。良いと思った事は、やる。そういった事を提言出来れば。

〇職員サポートについて

浦野：地域の特性に応じた職員サポート体制があれば。何か困った時に相談したいが、役場に行って相談だと、相談しづらい。

事務局（小笠原係長）：飯島町は、全常会に職員が張り付いている。地域に職員に入れば、聞ける。

平出：各区に職員サポート（地域支援スタッフ）してくれている。町に行くより先に区長に連絡くる。その時に職員（地域支援スタッフ）に相談している。

〇自発的な取り組みについて

小林：核になる人がいればいい。明日から木下文化祭。木下文化祭では、常会単位で作品、進修高校の通り、イルミやっている。イルミは、常会の母ちゃん達がやり始めた。町から補助金をもらって、電飾を買ったりしている。若妻会、集まって何か作って楽しんでいる。

自然発生的に出来た。行政から何かしてくださいじゃ続かないと思う。

平出：北小河内、イルミある。地元の有志が集まって作っている。そういうのが、自然発生的に出来ていけば。

小林：そういう団体に町から補助金出るよ。と分かれば。

事務局（小笠原係長）：PR 不足で申し訳ないが、地域総合活性化交付金という制度がある。

小林：そういう団体に町として、支えてもらえれば。

小松：お茶を飲むという形に持っていく。若い人は、大事。お子さんいる。子供の行事なら関われる。一緒に一生懸命やる。娘の住んでいる地域の盆踊り。バブリーダンスを盆踊りに入れて若い人が楽しんでいた。地域の盆通り、小さい子も楽しんでやっている。例えば、木下区納涼祭の盆踊りだけに若い人に関ってもらい、楽しい行事にしてもらえれば。どういう若い人達が地域にいるか分からない。機会があれば、発信していきたい。

〇取り組みの共有、仕組みについて

委員長：多くの方の中には、色々なスキルを持った人がいる。アイディアを募集して、先進的な取り組みは共有できるような新たな仕組みを立ち上げてもいいのでは。

浦野：その時の流行りとか。

委員長：その時の流行りを取り入れられれば。そういった事の繰り返しが意識になる。

小松：やらされるではなく、自分で考えた事をやってもらう。

唐澤：やってやると若者が出てくるが、まちづくり懇談会みたいのは、出て来ない。若い人たちの意識をどう持っていくか。若い人達に自分から進んでやるという方向に持っていく仕掛けを。

有賀：若者の１人として、自分の住んでいる所、移住者多く、近所交流は、そんなに無い。問題かと聞かれるとそうでない。ほどよい関係。コミュニティの必要さは、あまり感じない。薪の配布、人集まってくる。木は、欲しい人いる。対価として、近所の草刈りをやったらポイントが貯まって、木がもらえるという仕組みは、どうか。

浦野：萱野の山道荒れている。今の仕組みは、いいなと思った。昔より荒れている。

委員長：健康ポイントの地域貢献版みたいなもの。

〇子供を育てる地域について

浦野：保育園が、住む人からうるさいと言われ、追いやられる。高齢になって、静かな生活になるとうるさいと思うのかな。昼間だけだと思うが、高齢者も変わってきているかなと思う。若者だけじゃなく、私達、上の世代も変わってきているのでは。

小林：核家族化している。

浦野：少子化、皆で子供を育てていかないといけない。

委員長：寛容な気持ちを持って欲しいと訴えていくべき。そういう気持ちを持ってもらう為に、投げかけを。多少の批判があっても提起したい。提言に盛りこみたい。区へ入る時の加入金、入区金の減額可能か。

〇区費について

唐澤：区費は、下げた。

委員長：加入金、5 万円程とっている。

平出：加入金について、色々言われた事は、無い。

唐澤：役員の負担がひっかかるのでは。

小林：家建てて、区の加入金 5～6 万円は、負担大きいのでは。

平出：私自身、加入金辞めた方がいいかなと思うが。

唐澤：中原の課題として、区費の徴収範囲。同一敷地問題。富田、跡取りと分かっていれば、離れていても区費の負担は、無し。小さい区は、役が多いので逃げてしまう。他に家建ててしまう。他に家建ててしまう。役の順番決まってしまっている。区としても若い人は、貴重な存在。

平出：北小河内は、自分の敷地内なら離れていても OK。

事務局(小笠原係長)：伊那市、各区の紹介、入区金出ている。そうすると、そういった所に来ない。デメリットになる部分ある。

〇成り手不足について

委員長：結構シビア。役員の成り手不足は、いかがか。

小林：大きくても大きいなりに大変。

唐澤：12 月に区長、区長代理を決める。

小林：2 年にしたらどうか。

唐澤：出来るわけない。

委員長：小さい区は、ボランティア。

平出：1 年では、ベースが出来るだけ。

委員長：2 年任期制のメリットは、分かっているが、負担大きい。

浦野：役の役割の減少。どこの区もこれ以上は、どうしようもないのか。

平出：私の女房、民生委員。研修、会合が多い。民生委員をやっているから、社協に入らないといけない。ふれあい会、会長。そういうのが分かると逃げられる。成り手がいない。

〇慣例的な行事、町民意識について

委員長：町民新聞の町長日程見ている。町長、こんなに各行事に出ないといけないのか。昔からの慣例で出ている部分あると思う。そういう所を変えていく必要がある。町民意識の問題もあると思う。休む時は、休んでもらう。

平出：私も役の簡略化を考えていたが、実際にやってみると、どれも必要だと思うようになった。思い切って辞める勇気が無かった。

委員長：町民、区民の意識変えるなら、合意形成必要。

浦野：私は、思い切ってやって、楽になった。

唐澤：大きい区、金があるから、出来る。

小林：お金が無くても、上手く出来る工夫ある。

平出：北小河内も昔、ながたで敬老会やった。人が増えて、公民館に戻した。

委員長：敬老会の問題。先輩を敬う気持ち大事だが、今の敬老会でいいのかという問題。南小河内、参加率 2 割、参加者高齢化、参加者の固定化。区長の時、敬老会辞めて、記念品を配った。賛否両論出た。信濃毎日新聞でも批判記事があった。

平出：どういうふうにしたらいいかという気持ちはあるか。

委員長：変える勇気、従来の慣例出来ている。変えると批判、エネルギーが必要。

平出：辞める時のエネルギーが必要。

委員長：理屈じゃない部分あるので、大切な事もある。

〇若者への情報発信について

事務局（小笠原係長）：若い方への情報発信。若い方が情報発信。区会だよりを作ったらいいかなと感じた。

委員長：みのわの実の企画は。

事務局（毛利課長）：各課から上がってきたものを掲載している。作成は、中央印刷。

委員長：町民代表を加えるのは。

事務局（毛利課長）：広報モニターがいる。

委員長：若い人、町民を加えてみては。

平出：どれだけ見ているかという問題。防災訓練で使うカードを配布したみたいだが、多くの人が見ていなかった。

委員長：新聞はどうか。

小林：新聞、若い人は、見ないかも。

平出：今は、スマホの時代。区の情報をスマホに入れられないか。区のスピーカー老朽化している。聞こえない。北小河内区でもスマホ検討している。

事務局(毛利課長)：E メールで登録者、ジャンル毎に送付している。

平出：その中に区の単位を入れられれば。

事務局(毛利課長)：今のシステムは、対応していない。スマホアプリで出来ないか検討している。

副町長：どう負担軽減をするか。女性、子供、今後につながっていく人達をどう巻きこむか。町として、どこに施策をうつか、考えていきたい。活性化、若者、女性の参加が大切。そこにサポート出来る仕組みがあれば、活性化につながるかなと思う。誰かが何かの役割をやらないと回っていかない。役割があれば、頑張る役割を与えると頑張る。JA の理事、女性枠ある。区会議員の女性枠必要。一歩踏み出さないといけない。恐れていると、中々出来ない。出来なかったら、別の事をやってみる。そうしないと活性化出来ない。女性議員必要、議論すればいい。私の個人的な考え方。

委員長：冒頭で話したスケジュールでまとめていきたい。委員長、副委員長、事務局でまとめていきたい。

次回日程：令和 2 年 1 月 21 日(火)　13：00～　予定